



患者さんにとって楽な検査ですので、それだけ時間をかけて観察できます。

# 内視鏡検査の経鼻と経口は「8:2」の割合になっています

## 後藤 琢

ごとう内科胃腸科院長



ごとう たく  
平成7年川崎医科大学卒業。  
平成8年川崎医科大学附属病院へ勤務。  
平成13年ごとう内科胃腸科院長に就任、現在へ至る。  
日本内科学会、日本内視鏡学会  
日本放射線医学学会  
日本抗加齢医学会専門医

開業医として「かかりつけ医」の役割であるプライマリケア医療（初期診療）の実践を心がけてきました。常日頃から何でも気軽に相談できる健康相談の窓口となり、病気にかかった時には家族一人ひとりの体質、病歴や生活習慣を知った上で病状を把握し、必要な検査や治療方法についてわかりやすい説明を行っています。また患者さんに「やさしい医療」を提供することも「かかりつけ医」としての役目です。当院では平成十八年から経鼻内視鏡も導

入していますが、「楽な検査」も「やさしい医療」の一つと考えています。口から内視鏡を入れる検査で苦痛を感じるのは、吐き気を催す咽頭反射が原因ですが、鼻から入れる場合はその反射がありません。苦痛の少ないのが経鼻内視鏡の大きな利点ですが、鼻から挿入することによって鼻出血を起こすことがあることや画像の解析度が経口内視鏡に比べてやや劣るなどの欠点もあります。当院では経鼻と経口の両方の内視鏡を用意し、それ

ぞれの特徴等を説明してから患者さんに選択をしてもらっています。最近では経鼻と経口の割合は「8対2」くらいになっています。経鼻内視鏡は画像の解析度がやや劣るといわれていますが、現在ではカメラの性能も向上し、丁寧に観察することで欠点を十分にカバーすることが可能です。なにより患者さんにとって楽な検査となるので、それだけ時間をかけて観察できることが可能です。また検査中も医師

と会話をすることができ、すので、苦痛を訴えたり、気になるようなことなども確認しながら安心して検査を受けられます。

経口内視鏡検査で辛い体験をした場合には、定期的な受診を行わずに、自覚症状が起きてから、ようやく検査を受ける人もいます。経鼻内視鏡による検査を経験すると、「内視鏡検査の苦しいイメージがなくなっ

た」「すすんで検査を受けられるようになった」という患者さんの声を数多く聞いています。

楽で受けやすい経鼻内視鏡による検査は診療所でもっと広がっていくでしょう。そして、早期発見・早期治療によって手術を行わずに治療可能なケースがもっと増えるでしょう。「辛い」体験から検査を避けてきた人は一度経鼻内視鏡による検査を受けられることをおすすめします。